

びやかされるのではないかと憂慮される。われわれは、今こそ原子力政策が原子力基本法に精神に徹すべきであるとする。

政府においては、わが国における原子力の研究・開発・利用が平和目的以外に逸脱することのないよう、原子力基本法を厳守されることを要望する。

4-45

庶発第248号 昭和34年5月1日

科学技術庁長官臨時代理

国務大臣 佐藤栄作 殿

日本学術会議会長 兼 重寛九郎

大学教官の待遇改善について（勧告）

標記のことについて、本会議第28回総会の議に基づき、下記のとおり勧告します。

記

大学教官の待遇改善については、昨年10月開催の第27回総会の議を経て、同年12月3日付で政府に勧告したが、その一部の実現をみただけである。

この問題の重要性にかんがみて、前の勧告の主旨が十分に生かされるよう重ねて要望する。

（参考添付資料）

前回の勧告文……………番号197参照

4-46

庶発第250号 昭和34年5月1日

文部大臣 橋本龍伍 殿

日本学術会議会長 兼 重寛九郎

中央教育審議会の答申「教員養成制度の改善方策について」（勧告）

標記のことについて、本会議第28回総会の議に基づき、下記のとおり勧告します。

記

この答申は、戦後確立された大学の理念からはなれて、かつての師範教育の復活を招くおそれがある。

とくに大学に関して、国が一定の基準を定め、その維持について必要な指導監督を行うこととなれば、大学の性格をそこなりだけでなく、学問研究の自由を、おびやかすおそれがある。

よつて、政府はこの答申の取扱いについては十分慎重を期せられたい。

4-47

庶発第321号 昭和34年5月15日

文部大臣 橋本龍伍 殿

日本学術会議会長 兼 重寛九郎

国立大学の人文・社会科学系教官の研究費の増額について（勧告）

標記のことについて、本会議第28回総会の議に基づき、下記のとおり勧告します。

## 記

国立諸大学の教官研究費は、近年若干増額されたが、その大部分は、自然科学系にあてられ、人文科学系・社会科学系には僅少な額が割当てられているにすぎない。

このような不均衡を是正して、人文科学系・社会科学系の教官研究費を大幅に増額するために適当な措置が講ぜられることを要望する。

4-48

庶発第367号 昭和34年5月28日

科学技術庁長官 高 橋 達之助 殿

日本学術会議会長 兼 重 寛九郎

わが国における農薬研究の重要性について（勸告）

標記のことについて、本会議第28回総会の議に基き、下記のとおり勸告します。

## 記

政府はわが国における農薬研究の重要性に鑑み、早急にこれを推進すべき体制を整え、遺憾なきを期せられたい。

なお、研究体制の整備に関連し、農薬研究所等を設立されることが望ましいと考えられるが、その内容規模等について、別添の如き案など参考にされるならば幸である。

## 理 由

わが国における農薬の生産量は、年間10数万トン、金額にして約200億円に達し、今や肥料、農機具とならぶ重要な農業資材とされている。

とくに注目されるのは、DDT、BHC、パラチオン、水銀製剤、2・4-D等のいわゆる新農薬が稲作病虫害防除ならびに除草に果たした役割で、その成果は防除に伴う直接的増収効果のみならず、さらに早期栽培や早植栽培を容易にし、ひいては秋落防止や台風の被害回避の道を開く等稲作栽培技術の飛躍的發展に寄与して史上空前の連続豊作をもたらす支柱となつたことは、衆目のみとめるところである。

現在、主穀の栽培にわが国のように多種大量の農薬を消費する現象は世界各国にその例を見ないところであり、欧米諸国はわが国のこの特異性に着目し、わが国の稲作病虫害を対象として新農薬創製に重大な関心を寄せている。一方強力な農薬の普及に伴う栽培様式の変化は、従来重要視されていなかつた紋枯病等の発生を増大し、これらに対する特效薬が要求され、一層農薬創製に関する関心を高めている。

近年、政府は、農家経済の安定・向上を目指して、畑作振興政策を推進しているが、その重要な一環として、土壌病虫害の防除を採り上げている。すなわち、畑作物の連作や増収を阻む土壌線虫の薬剤防除を指導し、土地の高度利用と農家の発意による自由な適地適作を可能ならしめようとするものである。これに要するD-D、E DB等の土壌消毒剤は、現在10アール当りの薬価約5,000円、計画通りの普及をみた際には年間100億円の薬剤消費をみるものと予想される。この薬価引下げは、畑作病虫害防除事業の当面する重要課題であり、安価にして有効な新土壌農薬の創製は単にわが国のみならず、世界的な課題として盛んに研究が進められている。